

# あすの淡海

自然と人との共生をめざして

VOL.

49

2025 春号

## 気候変動防止「デコ活」啓発ポスター入賞作品

地球温暖化防止活動推進センター

協賛：京セラ株式会社、東京センチュリー株式会社、京セラTCLソー



サステナブルファッションとは



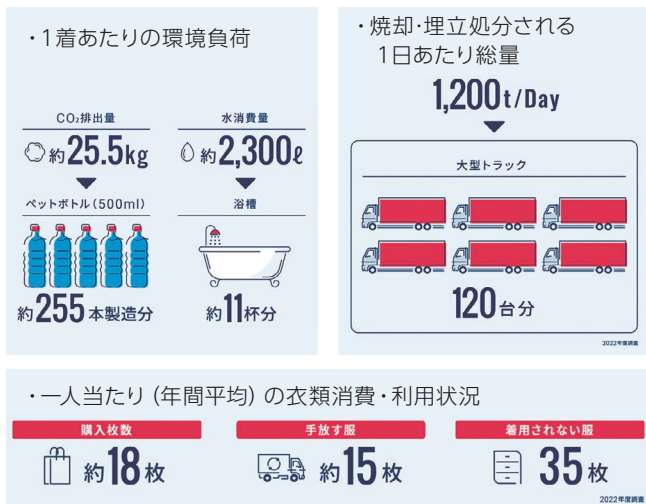
# サステナブルファッションとは

近年、ファッションが与える地球環境への影響に関心が高まっています。ファッション産業は、大量生産・大量消費、大量廃棄により、製造にかかる資源やエネルギー使用量の増加、短サイクル化などから環境に大きな負荷をかけています。現在の日本では、衣類の多くを海外に依存していて、その負荷が見えにくくなっています。また、使用後の衣類も十分活用されていません。

このような中、今注目されているのが、「サステナブルファッション」の取組みです。「サステナブルファッション」とは、衣類の生産から着用、廃棄に至るプロセスにおいて、将来にわたり持続可能であることを目指して、生態系を含む地球環境に関わる人・社会に配慮した取組みのことです。

私たちが身に着けている衣服の背景をしっかりと見つけ、どのようなことができるか考えてみましょう。

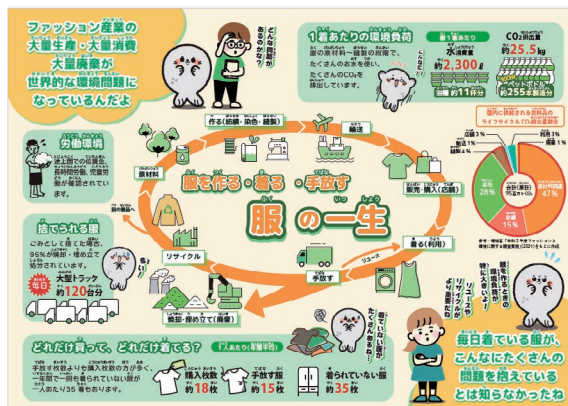
## 服の環境負荷



参考：環境省「サステナブルファッション」HP

## 当財団の取組み

当財団では、サステナブルファッションについて、楽しみながら知り、行動する啓発資料や低学年向けのペーパーパズルを作成し、地域で実施される服のリユースイベント等で配布しています。



## 私たちが取り組めるアクション

サステナブルファッションの実現に向け、私たちが取り組めるアクションを通して、ファッションと環境の未来をみんなでよりよいものにしていきましょう。

### 今もっている服を長く大切に着よう

- ・1着と長いお付き合いを
- ・お直しやリペアなど手を加えて愛着倍増へ

### リユースで楽しもう

- ・古着を楽しもう
- ・服をシェアして楽しもう

### 先のことを考えて買おう

- ・本当に必要か見極めよう
- ・長く着られる品質を選ぼう



### 作られ方をしっかり見よう

- ・衣服の素材や生産ルート、環境影響を確認しよう
- ・再生素材などサステナブルな素材を見つけ、選ぼう

### 服を資源として再生利用しよう

- ・古着を店舗に持ち込もう
- ・古着を資源として回収に出そう



着て、捨てて終わりのファッションから、地球環境への影響を考え、服の素材や背景にこだわり、1着を長く大切に着る、ていねいな暮らし方(服の着こなし)が、これからのファッションの楽しみ方になると思います。日常生活の中で、できることから始めましょう。

県内でも子ども服を中心に、地域の団体などが中心となった服のリユース会を見かけるようになりました。インターネットやインスタグラムで検索し、一度参加してみたいはいかがですか？

## ★トピック

### 竜王町エコライフ推進協議会の取組み

令和4年度から、大量に捨てられる服をなんとかしたいと、“もったいないをハッピーに♡”をテーマに、服を回収してイベントで自由にお持ち帰りいただく「ファッションドライブ」「どうぞの会」を開催されています。

令和6年度は、約100名の方が集まる人気のイベントとなり、合計331kgもの服が次に着てくれる人のもとへ渡りました。古着を捨てずに活用し循環させたことで、17.7tのCO<sub>2</sub>排出削減になりました。





# この人に聞く



滋賀県旅館ホテル  
生活衛生同業組合  
事務局

くすもと まき  
楠元 昌樹さん

私たちは、日頃ホテルや旅館に宿泊する際、気軽に備え付けのアメニティを使用しています。滋賀県旅館ホテル生活衛生同業組合では、2030年までに使い捨てプラスチックアメニティをゼロにしようと業界が一丸となって取り組まれています。全国初のこの取組みが評価され、県の「CO<sub>2</sub>ネットゼロみらい賞 製品・サービス部門」および「滋賀県プラスチックごみ・食品ロス削減優良取組表彰」を受賞されました。

この取組みの実務を担われた事務局の楠元さんにお話をお聞きました。

## — 2030年までにプラスチックアメニティをゼロにする取組みをはじめたきっかけは何ですか。

**楠元さん** 2022年にプラスチック循環促進法が施行され、特定プラスチック製品の使用の合理化が求められました。SDGs推進プロジェクトを立ち上げ、SDGsやそれぞれの施設の取組みについての勉強会を重ねました。当時はコロナの影響で、業界に不安が広がっていましたが、こんな時だからこそ将来を見据えて組合運営をしていこうという話になりました。コロナ明けに何をしたいかという投げかけに、ごみ、食品ロス、アメニティ対策と意見がまとまり、SDGs行動宣言をしました。

琵琶湖をきれいなまま後世に引き継ぐというメンバーの思いがまとまり、スローガンは「環境と観光の共生地」になりました。

## — 全組合員施設が歩調を合わせるために、どのような取組みから始められたのですか。

**楠元さん** 旅館やホテルにおいて身近なプラスチックごみはアメニティです。従来品より3割近くプラスチック含有量が少ない歯ブラシをサンプルとして選び、プラごみ削減という組合の指針への協力依頼の文章を添えて全組合員に郵送しました。併せて、宿泊人数や提供した歯ブラシの数などを把握するアンケートを行いました。その際の意見としては「歯ブラシの提供をやめたらゴミがすごく減った」「アメニティを使ったか否かのチェックにかかっていた時間が大幅減となり効率化ができた」「アメニティを出さないケチなホテルといわれる」「まだ在庫があるのにどうしたらいいのかわ」など様々でした。

この時、あるホテルが先頭を切ってアメニティの提供をやめて持参の協力を要請されたところ宿泊者の8割が持参されました。また、持参されない方には高額な歯ブラシを安価で販売する取組みも行われました。

## — 削減量の「見える化」の取組みを教えてください。

**楠元さん** 宿泊者の皆さんにアメニティ削減の理解と協力を得るため、2030年までに使い捨てアメニティをゼロにする目標を記載したヨシ紙のメッセージカードを各客室に設置してもらうようにしました。

また、2022年のアンケート結果から、龍谷大学の水原先生に全組合員施設で1年間に提供されたプラスチックアメニティの量、即ち、宿泊者にアメニティを持参いただくことで削減できるプラゴミとCO<sub>2</sub>の量を算出していただきました。推計値ですが、年間40tものプラゴミと300t CO<sub>2</sub>が排出されたということになります。

アメニティの種類ごとに削減量を記載した啓発ポスターを作成し、各施設のエレベーターの中やフロントに掲示していただきました。その結果、賛同される組合員が徐々に増え、提供品目もだんだん減ってきています。

## — この取組みをどのように発信されていますか。

**楠元さん** 当たり前を変えることは大変です。新聞やテレビで紹介されるといろいろな方が興味を持ってくださいます。県域でやっているのは当組合だけです。観光経済新聞社賞などに応募して受賞したり、いろんな形で取組みを発信しています。また、デコ活交流会での発表や関西広域連合などでの講演依頼もお受けしました。

今年は滋賀県で国スポ障スポが開催されます。ここでも、「環境保全に注力している県」だということを売り込むため、各府県の選手団に歯ブラシ持参をはたらきかけています。

## — CO<sub>2</sub>削減につながる地産地消にはどのような取組みをされているのですか。

**楠元さん** 今これだけ物価高で、トラックの運転手不足が問題になっていてもやはり遠来の食材が多く、その運搬によって大量のCO<sub>2</sub>が排出されています。

宣言にも「すべての食材のうち50%が地元産を目指す」と掲げているので、県内で取れて旬を楽しめる野菜や果物が地域内で循環するように昨年10月に生産者と加工業者の交流会を開催しました。販路拡大や食べ方を伝え合うなど今後につながる良い場となり、これからも続けたいです。

## — 最後に読者へメッセージをお願いします。

**楠元さん** ここ数年、地球温暖化の影響か、これまでの滋賀県ではなかった豪雨災害や豪雪災害が起こっていて、なおかつ湖魚が取れません。せっかく琵琶湖に遊びに来られても皆さんに楽しんでもらえません。CO<sub>2</sub>削減につながる取組みのひとつとして、使い捨てアメニティを止めたいと思っています。

琵琶湖をきれいな状態で次の世代に引き継げるよう、旅行の際にはぜひアメニティをご持参いただくとともに、日常生活でも地産地消などできることからみんなで取り組みましょう。



歯ブラシを持った組合員の皆さん

# 淡海 ヨシ紀行

～淡海の原風景を訪ねて



## 第4回 針江(高島市)

高島市今津町から新旭町にかけての湖岸は古来よりヨシ原が多かった場所で、そのことを高島市今津町弘川にある阿志都弥神社が示しています。行過天満宮の別名をもつこの神社の境内に「善積郷社」と彫られた石碑が今も残されているように、かつてこのあたりは「善積郷」と呼ばれ、古い文献にある「高島郡葦積郷」と同じ場所であることがわかっていきます。もともとヨシが茂る湿地であつたらしく、「葦積郷」の「葦」が後になって「善」に変えられたものと思われ、この地域とヨシとの深い関わりを想像させられます。

高島市新旭町針江の湖岸にはまとまったヨシ群落があり、冬になるとヨシ刈りが盛んに行われ、刈り取ったヨシは丸立てされ、様々な利用が行われてきました。かつては民家の多くが葦葺屋根で、何十年かに一度の葺き替えに利用するため、刈り取ったヨシが保存されてきました。また、夏の暑さを防ぎ、風を入れて涼を取る葦簀などが暮らしの中に取り入れられ、材料となるヨシが採取されてきました。刈り取った跡のヨシ地は焼かれて、春の芽吹きを待ちます。このようなヨシをめぐる循環が営々と続けられてきました。

近年、ヨシと人との関係が希薄になり、ヨシ地の手入れが十分に行われなことから、外来種の侵入やヤナギなどによる樹林化が進みつつありました。

ヨシ地で繰り返されてきた循環が途絶えつつあることに危機感を抱いた(株)高麻代表取締役の中村正博氏は、令和元年にびわこ高島の葦を守る会を結成され、針江のヨシ群落でヨシ刈り、草刈り、火入れなどの保全活動に取り組まれています。当会では箱館山にヨシの丸立てを設置し、すだれと虹色の風鈴をコラボさせた「風鈴のよし小道」を整備するなど、ヨシの有効利用と併せてヨシのPRや保全のための啓発にも力を入れています。

また、(株)高麻では、刈り取ったヨシからヨシ糸へ、さらにはヨシ布に加工し、Tシャツ、ハンドタオル、エコバッグなど様々な製品として販売されています。

かつては葦葺屋根やすだれなどにヨシを利用することで、自ずと保全されてきたヨシ群落ですが、人々の価値観や生活スタイルが変化する中で、ヨシの新たな利用策を見出すことにより、一度は途絶えたヨシの保全と利用の循環を復活させようとする試みが始まっています。



ノウルシが咲く針江のヨシ群落

### 滋賀県 地球温暖化防止 活動推進員 リレートーク



丸山 郁夫さん  
大津市在住

今回は、細やかなお心配りでいつもバリアフリーな出前講座や啓発活動を実施され、特にふるしき講座での優雅で鮮やかな所作が印象的なこの方です。

長い間京都で、ボランティアとして地球環境保全・温暖化防止活動に取り組んでいたところ、滋賀県大津市に住んでいるのなら、滋賀の環境活動をするべき!とスカウト?されて現在に至っております。

以下は滋賀県の地球温暖化防止活動推進員としての楽しかった取組みの一例です。

- 地域の児童クラブへ出向き、子どもと一緒に地球にやさしい「おかいものゲーム」をしました。
- 小学校の教室から外へ出て、「火起こし体験」。木の摩擦で種火を作り、大きな火とつなげていく、エネルギーの大切さを学ぶ楽しい時間を持ちました。
- 地域の集まりにお邪魔して、シンプルエコバッグ、いろいろな形の物の包み方など「ふるしきの使い方いろいろ」を伝え、楽しみながら新発見をしていただきました。



温暖化防止活動は、同じ目線で伝えることが大切だと思っています。これからも気負わず仲間と一緒に推進員として行動していきます。皆さんよろしく!

地球温暖化防止活動推進員は、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、知事から委嘱され、温暖化防止にかかる普及啓発を行われています。



## 『しがデコ活推進フェア2024』を開催しました

11月30日、コラボしが21の3階フロアで、『しがデコ活推進フェア2024』を開催しました。

例年のポスター表彰式と講演会に先立ち、今年は古着や布地を活用したクリスマスリースづくり、イルミネーションを点灯させる自転車発電、マイボトル



づくりなど、幅広い年齢の方に「デコ活」を知っていただける内容のイベントとしました。サステナブルファッションの紹介や、古着回収の呼びかけにもご賛同をいただきました。

今年で8回目となる地球温暖化防止ポスターの表彰式に続き、谷口たかひささんによる講演「気候変動と自己肯定感」では、熱心な質疑応答が続き、会場は熱気に包まれました。



デコ活ポスター  
最優秀賞知事賞受賞作品  
林 華凜さん  
(彦根市立鳥居本小学校3年)

### 作品に込めた思い

きれいな緑ときれいな地球を守りたい。私がかいた絵を見て同じ服を長く着てくれる人が増えてほしいです。

## 『水環境体験学習ツアー in 矢橋帰帆島』が開催されました

令和7年2月16日(日)、3月16日(日)それぞれの午前午後各2回、草津市の矢橋帰帆島にある「淡海環境プラザ」や「湖南中部浄化センター」において水環境や琵琶湖の環境などについて学ぶ「水環境体験学習ツアー in 矢橋帰帆島」が開催され、当財団はその運営協力を行いました。

下水をきれいにする微生物の働きや、使った水を下水道に流す時のルールについて、謎のピンクのロックバンド(音蜜奏新)の歌や紙芝居で予習した後、湖南中部浄化センターへ見学に行きました。



湖南中部浄化センターでは、下水がきれいになっていく様子を移動しながら確認していきました。鼻をつまみながら覗き込む子どもたちの姿も・・・水がきれいになっていく過程を匂いの違いでも感じ取れたかもしれません。

プラザでは、国立環境研究所琵琶湖分室による琵琶湖の生き物についての学習のほか、ヨシや地球温暖化防止についても学び、琵琶湖の水環境等について体験的に学ぶ半日となりました。



## カンボジア水環境便り ~住民と歩む現場から~

元財団職員でJICA専門家の藤村俊樹さんは、2023年までベトナム・クアンニン省ハロン市で『グリーン成長政策アドバイザー』を務められ、本誌へは『ハロン湾から』を寄稿いただいていた。昨秋からはカンボジアに2年間の予定で赴任中です。現地での様子を紹介します。

日本では蛇口をひねるだけで安全な水が飲めますが、世界人口の4分の1である約20億人の人々は安全な飲料水にアクセスできません。かつてはカンボジアの首都プノンペンも例外ではありませんでした。JICA(国際協力機構)は1993年から北九州市水道局の協力を得てプノンペンの水道整備計画を作成し、無償資金協力による水道施設の設置やプノンペン水道公社の人材育成などに取り組みました。その結果、わずか15年で安全な水を安定的かつ安価に提供する水道サービスを構築しました。この成功は世界から驚きと称賛をもって「プノンペンの奇跡」と呼ばれています。



住まいから奥の青いメコン川と手前の茶色いトンレサップ川の合流地点

一方、汚水についてはほぼ未処理のまま湖沼や湿地帯などに放流されており、環境衛生面で悪影響を及ぼしています。JICAは汚濁負荷の削減を図るため、プノンペンにおいて小規模な下水処理施設を建設しました。今私たちJICAは「下水管理能力強化プロジェクト」をスタートさせ、第2のプノンペンの奇跡を目指し、中長期下水道事業計画の策定、人材育成、住民啓発などの取組みを進めています。



日本とカンボジア王国との友好と協力の証と記載されたプノンペン下水道整備事業の石碑

## 「すすめ!!びわっこ探検隊」の参加者を募集します

当財団では、令和7年度から滋賀県の子もたちが自然環境に興味関心を持つきっかけづくりを行うため、「すすめ!!びわっこ探検隊」の事業を実施し、参加者を募集します。

滋賀県内の豊かな自然環境、自然と人の共生、文化などを学び体験するプログラムを年間4回開催します。

- 対象** 滋賀県内在住の小学4年生から中学2年生
- 募集人員** 1回15名程度 応募多数の場合は先着順
- 開催地** 滋賀県内 現地集合現地解散とします
- 活動内容** 琵琶湖の生き物観察、森林散策、ヨシ刈り体験など  
**第1回 日時:** 令和7年5月17日(土) 9:30~12:00  
**場所:** 淡海環境プラザ  
**内容:** 矢橋のヨシ帯観察と生き物との関係を学習、ヨシを使った工作
- 参加料** 各回ごとに実費を徴収します(施設利用料、材料費、保険料等)  
**第1回 500円/人**
- お申込み** **第1回** 令和7年4月25日(金) 締切  
**申込先** tel:077-569-5301  
 2回目以降は活動毎に参加者募集

※詳しくは当財団までお問い合わせください。



## 「琵琶湖ヨシ腐葉土」価格改定のお知らせ

「琵琶湖ヨシ腐葉土」については、原油価格の高騰、人件費や加工費などの上昇により、下記のとおり製品の価格を改定させていただきます。

ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

記

- 改定日 令和7年(2025年)4月1日
- 対象製品 琵琶湖ヨシ腐葉土 元入れ約20L
- 改定価格 旧単価764円 → 新単価968円(税込)



## ご寄附をいただきました(甲賀農業協同組合様)

甲賀農業協同組合(JAこうか)様には毎年当財団に対し、琵琶湖や周辺環境への負荷を軽減した農産物、火力を使わずに乾燥し生産した『JAこうかのお米 除湿乾燥 特別栽培米「キヌヒカリ」』の販売収益の一部を寄附していただいています。今年も当財団が行う公益目的事業に対して寄附金を頂きました。

過日、当財団理事長の高木 浩文から感謝状を贈呈しました。



## 編集後記

最強寒波が二度襲来した冬を越え、ようやく春が訪れます。依然として「使い捨ての時代」にある私たちの暮らしですが、持続可能な未来のために、一人ひとりの意識が求められています。今号では、サステナブルファッションや、宿泊先でのプラスチックアメニティ削減といった、環境に優しい選択を紹介しました。便利さの裏側を見つめ直し、できることから始めてみませんか?小さな行動が、大きな変化を生み出します。

# あすの淡海 VOL. 49 | 2025 春号 (年4回発行)

発行

公益財団法人  
淡海環境保全財団

〒525-0066 滋賀県草津市矢橋町字帰帆2108番地  
 TEL : 077-569-5301  
 FAX : 077-569-5304  
 E-mail : info@ohmi.or.jp

滋賀県地球温暖化防止活動推進センター

TEL : 077-569-5301 FAX : 077-569-5304  
 E-mail : ondanka@ohmi.or.jp

淡海環境プラザ

TEL : 077-569-5306 FAX : 077-569-5334  
 E-mail : plaza@ohmi.or.jp



- 用紙:再生紙を使用
- インキ:環境配慮型インキ(植物油インキ)